

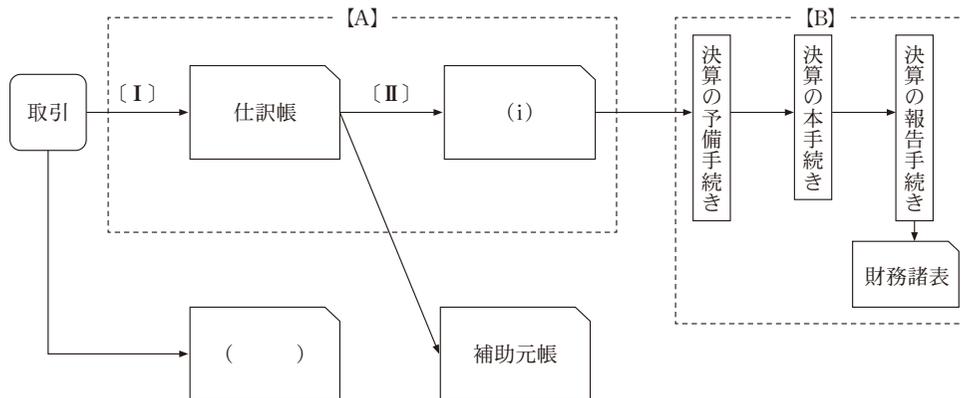
簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 次の図は、簿記一巡の手続きを示したものである。この図にもとづいて、4ページから9ページの問い(問1～8)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、()は各自で考えること。

図 簿記一巡の手続き



問1 図の〔I〕および〔II〕に当てはまる用語の組合せとして正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

- の解答群
- | | | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|-------|---|--------|
| ① | 〔I〕転記 | — | 〔II〕起票 | ② | 〔I〕仕訳 | — | 〔II〕転記 |
| ② | 〔I〕仕訳 | — | 〔II〕振替 | ③ | 〔I〕起票 | — | 〔II〕振替 |

問 2 図の【A】に属する帳簿をまとめて **イ** と呼ぶ。 **イ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

イ の解答群

① 主要簿	④ 補助簿
② 総勘定元帳	③ 精算表

問 3 図の【A】において、取引を分解する。次の(1)~(4)の取引について、取引要素の結合関係として最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。 **ウ** ~ **カ**

- (1) 会社設立にあたり、株式を総額 ¥ 200 で発行し、その全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。 **ウ**
- (2) 社債 ¥ 100 を発行し、その全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。 **エ**
- (3) 熊本物産株式会社に買掛金 ¥ 30 を支払うため、小切手を振り出した。 **オ**
- (4) 佐賀商事株式会社に対する売掛金 ¥ 5 の回収として、同社振り出しの約束手形を受け取った。 **カ**

ウ ~ **カ** の解答群

① 資産の増加 — 資産の減少	④ 資産の増加 — 負債の増加
② 資産の増加 — 資本の増加	⑤ 負債の減少 — 資産の減少
③ 負債の減少 — 負債の増加	⑥ 負債の減少 — 資本の増加
④ 資本の減少 — 資産の減少	⑦ 資本の減少 — 負債の増加

問 4 ×5年4月18日に、借入金¥500の返済にあたり、利息¥5とともに現金で支払った。この取引について、図の【A】における(i)に記入したものとして最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。なお、解答群の各勘定では、この取引と関係のない記入は省略してある。 **キ**

キ の解答群

①

現 金	借 入 金
4/18 借入金 500	4/18 諸 口 505
支 払 利 息	
4/18 借入金 5	

②

現 金	借 入 金
4/18 借入金 505	4/18 現 金 505
支 払 利 息	
4/18 現 金 5	

③

現 金	借 入 金
4/18 借入金 500	4/18 諸 口 505
支 払 利 息	
4/18 借入金 5	

問 5 図の【B】において、試算表が作成される。次の合計試算表において表示されている勘定科目のうち、残高試算表を作成した際に、借方欄に¥ 200 が記入されるものは **ク** である。 **ク** に当てはまる勘定科目を、後の解答群のうちから一つ選べ。

借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
200	(省	受 取 手 形	50
500		売 掛 金	300
40	略	支 払 手 形	200
100		買 掛 金	300
:)	:	:

(注) 「:」によって、記入は一部省略してある。

ク の解答群

- | | |
|--------|-------|
| ① 受取手形 | ① 売掛金 |
| ② 支払手形 | ③ 買掛金 |

問 6 図の【B】において、次の a ~ e の手続きを正しい順番に並べた場合、3 番目に行われるものは、 **ケ** である。 **ケ** に入る最も適当なものを、後の解答群のうちから一つ選べ。

- a : 収益・費用の各勘定残高の損益勘定への振り替え
- b : 繰越試算表の作成
- c : 損益計算書・貸借対照表の作成
- d : 当期純損益の繰越利益剰余金(または資本金)勘定への振り替え
- e : 決算整理仕訳

ケ の解答群

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① a | ① b | ② c | ③ d | ④ e |
|-----|-----|-----|-----|-----|

問 7 図の【B】における決算の本手続きにおいて、締め切り後の現金勘定として最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。ただし、開始記入は考慮しなくてよい。なお、「:」によって、記入は一部省略してある。また、太字は赤字記入を意味する。 **コ**

コ の解答群

①

現金								1
×5年	摘要	仕	借	×5年	摘要	仕	貸	
		丁	方			丁	方	
:	:	:	:	:	:	:	:	
30	当座預金	”	150					
			1,200				1,000	

②

現金								1
×5年	摘要	仕	借	×5年	摘要	仕	貸	
		丁	方			丁	方	
:	:	:	:	:	:	:	:	
30	当座預金	”	150					
31	次期繰越	✓	200					
			1,200				1,200	

③

現金								1
×5年	摘要	仕	借	×5年	摘要	仕	貸	
		丁	方			丁	方	
:	:	:	:	:	:	:	:	
30	当座預金	”	150	31	前期繰越	✓	200	
			1,200				1,200	

④

現金								1
×5年	摘要	仕	借	×5年	摘要	仕	貸	
		丁	方			丁	方	
:	:	:	:	:	:	:	:	
30	当座預金	”	150	31	次期繰越	✓	200	
			1,200				1,200	

問 8 図の【B】における財務諸表に関連して、次の貸借対照表の表示は、企業会計原則の一般原則のうち、**サ**の原則の観点から不適當である。

サに入る最も適當なものを、後の解答群のうちから一つ選べ。

貸 借 対 照 表

東京物産株式会社

× 6 年 3 月 31 日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
土 地	1,000	借 入 金	300
現 金	320	資 本 金	500
商 品	230	支 払 手 形	200
当 座 預 金	150	買 掛 金	120
⋮	⋮	資 本 準 備 金	100
⋮	⋮	⋮	⋮

(注) 「⋮」によって、記入は一部省略してある。

サの解答群

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| <p>① 保守主義</p> <p>② 明瞭性</p> | <p>① 正規の簿記</p> <p>③ 単一性</p> |
|----------------------------|-----------------------------|

B 次の文章は、商品売買業を営む山梨商事株式会社の新入社員である甲さんと、教育係の乙さんとの間でなされた会話である。これを読み、12ページから13ページの問い(問1～6)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、()は各自で考えること。

甲：乙さん、(i)仕訳帳に記入したのですが、資料1を確認してもらえますか。

資料1 甲さんが作成した仕訳帳(一部)

		仕 訳 帳		
×5年		摘 要	元 丁	借 方 貸 方
11	3	(備 品) (買 掛 金) 事務用のパソコンを購入し、代金は月末払い	—	100 100
	15	(貸 付 金) (当 座 預 金) 約束手形を用いた金銭の貸し付け	省	500 500
	26	(仮 払 金) (当 座 預 金) 法人税等の中間申告、小切手振り出し	略	200 200

(注) 会話に関係しない取引の記入は省略してある。

乙：いいですよ。よくがんばったね。でも、いくつか間違いがあるよ。たとえば、11月3日の仕訳だけど…。

甲：あ！商品の仕入れではないのに、貸方を買掛金としていました。(ii)固定資産を購入したときには、()にすべきでした。

乙：そのとおり。債権や債務は、発生原因となった取引の性質によって用いる勘定科目が変わるよね。ほかにも、11月15日の仕訳もみてみようか。小書きによると、借用証書の代わりに手形を用いた金銭の貸し付けとなっているから、より厳密な管理のために用いるべき勘定科目は貸付金ではなく、()になるよ。

甲：そうでしたね。ありがとうございます。正しい記入にするための訂正仕訳は、セであっていますか？

乙：正解だよ。11月3日の取引についても訂正しておこうね。

甲：わかりました。あと、なぜか金庫の中にある現金の実際有高が、帳簿残高とあわないのですが…。

乙：資料2の金庫の中身のうち、簿記上の現金として取り扱われるものはいくらかな？

資料2 山梨商事株式会社の金庫の中身

紙幣・硬貨	¥ 95
当社振り出しの小切手	¥ 7
群馬商店振り出しの小切手	¥ 17
郵便切手(未使用分)	¥ 3
栃木商店発行の商品券	¥ 8

甲：合計すると、¥ **ソ** **タ** **チ** です。

乙：そうだね。もし、現金の実際有高と帳簿残高が一致しなければ、いまはまだ決算ではないから、**ツ** 勘定を用いて、帳簿残高を実際有高にあわせるように調整しよう。これは不一致の原因が判明するまでの暫定的な処理だよ。

甲：どこかで取引の記入を忘れていたか、金額を間違えたか、あるいは勘定科目を間違えたかですね。後で調べておきます。

乙：しっかりと帳簿を見直しておきましょう。このほかに、勘定科目や金額が確定しない取引についても、期中に暫定的な処理を行うための勘定科目があることに気を付けよう。

甲：(iii) 仮払金や仮受金のことですね。これらは、前払金や前受金と混同しやすいので、気を付けないといけないですね。ちなみに、仕訳帳の11月26日における中間申告の仕訳は、これであっていますか？

乙：おしいね。法人税等の中間申告納付の場合、借方は **ニ** がより適切だよ。

甲：なるほど、勉強になります。

問 1 会話文における下線部(i)「仕訳帳」に関する記述として最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 シ

シ の解答群

- ① 借方欄に収益の勘定の金額が記入されることはない。
- ② 摘要欄に記入する勘定科目について、借方が二つ以上で貸方が一つの場合は、借方の勘定科目の上に「繰越」と記入する。
- ③ 元丁欄には、仕訳帳のページ番号を記入する。
- ④ 資本の増加額は必ず貸方欄に記入される。

問 2 会話文における下線部(ii)「固定資産」に関する記述として最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 ス

ス の解答群

- ① 販売目的で購入したエアコンは、備品勘定に計上する。
- ② 固定資産とは、比較的短期間に現金になる資産や当座預金のことをいう。
- ③ すべての固定資産について、毎期末に減価償却の手続きを行う。
- ④ 営業用のトラックや乗用車を買入れたときは、その買入価額に登録手数料などの付随費用を加えて、車両運搬具勘定に計上する。

問 3 会話文における セ に当てはまる仕訳として最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

セ の解答群

- | | | | | | |
|---|-----------|-----|--|----------|-----|
| ① | (借) 当座預金 | 500 | | (貸) 貸付金 | 500 |
| ② | (借) 手形貸付金 | 500 | | (貸) 当座預金 | 500 |
| ③ | (借) 手形貸付金 | 500 | | (貸) 貸付金 | 500 |
| ④ | (借) 受取手形 | 500 | | (貸) 貸付金 | 500 |

問 4 会話文における **ソ** ~ **チ** に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 5 会話文における **ツ** , **ニ** に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ツ , **ニ** の解答群

① 立替金	② 雑益	③ 現金過不足
④ 仮払法人税等	⑤ 未払法人税等	⑥ 法人税等

問 6 会話文における下線部(Ⅲ)に関連して、仮受金勘定を用いて処理すべき取引は **テ** であり、前払金勘定を用いて処理すべき取引は **ト** であり、前受金勘定を用いて処理すべき取引は **ナ** である。 **テ** ~ **ナ** に当てはまる取引を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。なお、商品売買取引は3分法で処理している。

テ ~ **ナ** の解答群

① 当座預金口座に¥ 600 が振り込まれたが、その内容が不明である。
② 売掛金の回収として、当座預金口座に¥ 500 の振り込みを受けた。
③ 商品¥ 300 の注文を受け、内金として¥ 100 を現金で受け取った。
④ 当月分の給料¥ 600 の支払いにあたり、所得税額¥ 30 を差し引いて残額を現金で支払った。
⑤ 商品¥ 120 を仕入れ、内金¥ 50 を差し引き、残額は掛けとした。
⑥ 決算に際し、受取地代のうち前受分¥ 100 を次期に繰り延べた。

第2問 個人企業である千葉商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、A商品
のみの売買を行っており、5伝票制(商品売買取引はすべていったん掛け取引とし
て処理する。)を採用している。ただし、毎月末に伝票を集計して仕訳集計表を作成
し、仕訳集計表から総勘定元帳に合計転記している。なお、補助簿として、売掛金
元帳、買掛金元帳、商品有高帳、受取手形記入帳を用いている。

千葉商店に関する次の資料1～資料5にもとづいて、17ページの問い
(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自
で考えること。[解答記号 ア～ヘ](配点 30)

資料1 ×5年1月中のすべての取引

1日：帳簿価額¥()の事務用のパソコンを売却し、現金¥90を受け取った。

なお、減価償却は直接法によって記帳している。

5日：商品券¥300を発行し、代金は現金で受け取った。

9日：福井商店より商品9個を@¥()で仕入れ、代金は掛けとした。

10日：9日に仕入れた商品のうち1個が破損していたため、返品した。

11日：長野商店へ商品()個を@¥200で販売し、代金は掛けとした。

14日：事務用のパソコン¥600を買い入れ、代金は翌月末に支払うこととした。

16日：山口商店より商品4個を@¥()で仕入れ、代金は掛けとした。なお、当
店負担の引取運賃¥()を現金で支払い、出金伝票で処理した。

21日：売掛金のある長野商店あて、当店受け取りの為替手形¥700を振り出し、
長野商店の引き受けを得た。

25日：長野商店に対して商品1個を@¥200で販売し、代金は現金で受け取っ
た。

28日：山口商店に対する買掛金¥350を支払うために、同店あての約束手形を振
り出した。

31日：石川商店が倒産し、同店に対する売掛金¥()(前期発生分)が回収不能と
なった。なお、貸倒引当金の残高は¥25である。

資料2 ×5年1月中に起票したすべての伝票(略式)

<u>入金伝票</u> 1月1日 備品 ()	<u>振替伝票(借方)</u> 1月1日 () 120	<u>振替伝票(貸方)</u> 1月1日 備品 120		
<u>()伝票</u> 1月5日 ア 300	<u>仕入伝票</u> 1月9日 福井商店 () 9個 @¥()	<u>仕入伝票</u> 1月10日 福井商店 () 返品1個@¥()	<u>売上伝票</u> 1月11日 長野商店 () ()個 @¥200	
<u>振替伝票(借方)</u> 1月14日 備品 600	<u>振替伝票(貸方)</u> 1月14日 () 600	<u>仕入伝票</u> 1月16日 山口商店 440 4個 @¥110	<u>()伝票</u> 1月16日 () イウ 引取運賃	
<u>振替伝票(借方)</u> 1月21日 () 700	<u>振替伝票(貸方)</u> 1月21日 () 700 ()	<u>エ伝票</u> 1月25日 ()商店 200 1個 @¥200	<u>入金伝票</u> 1月25日 () () ()	
<u>振替伝票(借方)</u> 1月28日 () 350 ()	<u>振替伝票(貸方)</u> 1月28日 オ 350	<u>振替伝票(借方)</u> 1月31日 () ()	<u>振替伝票(貸方)</u> 1月31日 売掛金 () (石川商店)	

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料3 ×5年1月末の仕訳集計表

仕 訳 集 計 表

×5年1月31日

借 方	元 丁	勘 定 科 目	元 丁	貸 方
590	(現 金	(40
700		()		
()		売 掛 金		910
カキ ()	省	()	省	
450		備 品		ククク ()
		支 払 手 形		()
		買 掛 金		()
		ア ()		300
	略	()	略	600
1,380		売 上		1,400
120)	仕 入)	サシズ
セ ()		()		
5,250				5,250

資料4 ×5年1月中の総勘定元帳(一部)

総勘定元帳			
売掛金		買掛金	
1/1 前期繰越	530	1/31 ()	910
31 ()	㊦㊧㊨0	1/31	㊩
		450	1/1 前期繰越
			31 () ()

資料5 ×5年1月中の取引に関連する補助簿(すべて)

売掛金元帳			
長野商店		石川商店	
1/1 前期繰越	520	1/21 ()	700
11 売上伝票	1,200	25 () ()	
25 売上伝票	()		

買掛金元帳			
福井商店		山口商店	
1/10 () ()		1/1 前期繰越 ()	1/28 () ()
		9 仕入伝票	900
			1/1 前期繰越
			16 仕入伝票 ()

(注) 次月繰越は省略してある。

商品有高帳

(移動平均法) 品名 A商品 単位:個

×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1	1 前月繰越	2	100	200				2	100	200
	9 福井商店	9	()	㊦㊧㊨				11	()	()
	10 福井商店返品				1	()	()	10	()	()
	11 長野商店				()	()	()	()	()	400
	16 山口商店	()	()	480				()	㊦㊧㊨	()
	25 長野商店				1	()	()	()	()	()
	31 次月繰越				㊩	()	()			
		()		()	()		()			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

受取手形記入帳

×5年	摘要	金額	手形種類	手形番号	支払人	振出人または裏書人	振出日	満期日	支払場所	てん末	
										日付	摘要
1	() ()	()	為手	(省略)	㊦	()	(省略)	(省略)	(省略)		

問 1 資料 2 の ア , オ , 資料 3 の セ に当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア , オ , セ の解答群

① 受取手形	④ 貸倒損失	⑦ 支払手形
② 固定資産売却損	⑤ 商品券	⑧ 前受金
③ 他店商品券	⑥ 減価償却費	

問 2 資料 2 の イ ・ ウ , 資料 3 の カ ~ ス , 資料 4 の ソ ~ チ , 資料 5 の テ ~ ノ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 2 の エ に当てはまる伝票の種類を、次の解答群のうちから一つ選べ。

エ の解答群

① 入金 ② 出金 ③ 売上 ④ 仕入

問 4 資料 4 の ツ , 資料 5 の ハ に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ツ の解答群

① 買掛金元帳 ② 出金伝票 ③ 仕入伝票 ④ 仕訳集計表

ハ の解答群

① 長野商店 ② 山口商店 ③ 当店 ④ 石川商店

問 5 福井商店に対する買掛金の次月繰越額は ¥ ヒ フ ヘ である。ヒ ~ ヘ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

第3問 個人企業である神奈川商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、本店のほかに沖縄支店と北海道支店を設けており、各支店の会計は本店の会計から独立している。ただし、支店の開設以来、本支店間での商品の取引は、本店が北海道支店に商品を送付するのみであり、その際には原価の10%の利益が加えられている。なお、支店相互間の取引については、本店集中計算制度を採用している。

神奈川商店の本店と各支店に関する次の資料1～資料4にもとづいて、21ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ～ **ヘ** 〕(配点 30)

資料1 ×5年12月31日における本店および各支店の決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表
×5年12月31日

借方	本店	沖縄支店	北海道支店	合計	貸方	本店	沖縄支店	北海道支店	合計
現金	480	350	160	990	買掛金	600	550		1,150
当座預金	620	150	140	910	借入金	2,000			2,000
売掛金	500	400	300	1,200	貸倒引当金	10	5	5	20
有価証券	400			400	建物減価償却累計額	810			810
繰越商品	600	500		1,100	備品減価償却累計額	240			240
建物	3,000			3,000	資本金	5,500			5,500
備品	960			960	本店		900	760	1,660
土地	1,500			1,500	売上	2,100	1,430	960	4,490
沖縄支店	1,180			1,180	支店へ売上	770			770
北海道支店	880			880					
仕入	1,150	820		1,970					
本店から仕入			550	550					
給料	340	205	125	670					
旅費	210	120	160	490					
消耗品費	200	120	110	430					
支払家賃		220	180	400					
支払利息	10			10					
	12,030	2,885	1,725	16,640		12,030	2,885	1,725	16,640

資料2 未達事項

- (1) 沖縄支店から北海道支店へ送付した現金¥ 200 が、本店および北海道支店に未達である。
- (2) 沖縄支店が本店の従業員の出張旅費¥ 80 を現金で立て替え払いしたが、本店に未達である。
- (3) 本店から北海道支店に送付した原価¥ 200 の商品が、北海道支店に未達である。
- (4) 北海道支店が本店の売掛金¥ 100 を現金で回収したが、本店に未達である。

資料3 決算整理事項等(本店および各支店に関するすべての事項を示している)

- (1) 北海道支店は、12月分の給料¥ 20 を小切手を振り出して支払っていたが、未記帳であった。
- (2) 期末商品棚卸高は、次のとおりである。なお、未達商品は含まれていない。
本店 ¥ 620 沖縄支店 ¥ 530 北海道支店 ¥ 110
- (3) 本店および各支店とも売掛金に対して、4%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (4) 本店の建物は、すべて×2年1月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は10年)で減価償却を行う。
- (5) 本店の備品は、すべて×4年1月1日に取得したものである。定率法(償却率0.25)で減価償却を行う。
- (6) 本店の有価証券は、売買目的で保有する株式である。決算日の時価は、¥ 420 である。
- (7) 消耗品の未使用分は、次のとおりである。
本店 ¥ 50 沖縄支店 ¥ () 北海道支店 ¥ 20
- (8) 沖縄支店の家賃は、毎年5月1日に1年分を前払いしている。なお、×5年5月1日の支払い分から家賃の見直しが行われており、見直し前の家賃は1か月あたり¥ 10 であった。
- (9) 本店の借入金は、すべて×5年4月1日に利率年3%(借入期間は1年、利払日は3月末日)で借り入れたものである。なお、利息は月割計算とする。

資料 4

× 5 年 12 月 31 日における本支店合併後の貸借対照表と損益計算書

貸 借 対 照 表

神奈川商店

× 5 年 12 月 31 日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金	㊦, ㊧㊨0	買 掛 金	1,150
当 座 預 金	()	借 入 金	2,000
売 掛 金 ()	()	ス	45
貸 倒 引 当 金 ()	()	資 本 金	5,500
有 価 証 券	420	当 期 純 利 益	431
商 品	()		
消 耗 品	㊦㊧0		
()	()		
建 物 3,000			
減価償却累計額 ㊦, ㊦㊧0	()		
備 品 960			
減価償却累計額 ()	㊦㊨0		
土 地	1,500		
	9,126		9,126

損 益 計 算 書

神奈川商店

× 5 年 1 月 1 日から × 5 年 12 月 31 日まで

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	1,100	売 上 高	㊦, ㊮㊯0
仕 入 高	()	()	()
セ	()		
	()		()
給 料	㊯㊰0	セ	()
貸倒引当金繰入	㊱㊱	有価証券評価益	㊮㊲
旅 費	㊱㊲0		
消 耗 品 費	330		
減 価 償 却 費	()		
支 払 家 賃	㊱㊳0		
支 払 利 息	()		
当 期 純 利 益	431		
	()		()

問 1 の未達事項(1)について、本店の処理を仕訳の形で示すと次のとおりである。 に当てはまる勘定科目を、後の解答群のうちから一つ選べ。

本店：(借) 200 (貸) () 200

の解答群

① 沖縄支店 ② 北海道支店 ③ 本店 ④ 未達現金

問 2 未達事項整理後の、本店の沖縄支店勘定残高と沖縄支店の本店勘定残高は、¥ で一致する。 に当てはまる金額を、次の解答群のうちから一つ選べ。

の解答群

① 1,180 ② 1,100 ③ 980 ④ 900

問 3 の ・ に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

・ の解答群

① 未払利息 ② 前払家賃 ③ 未払家賃 ④ 前払利息
⑤ 売上原価 ⑥ 売上総利益 ⑦ 売上総損失 ⑧ 営業利益

問 4 の ~ , ~ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 5 本支店合併後の貸借対照表と損益計算書を作成するにあたって、控除された内部利益の金額は、¥ であった。 ・ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。